年度末報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　2022 年　4 月２８日
● 事　業　名　：　安全・安心な地域社会づくり支援事業
● 資金分配団体　：　更生保護法人日本更生保護協会
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1　支援地域(滋賀県)において、サポートグループにつながり、息の長い支援を受ける状態になる【滋賀県更生保護事業協会】	支援を受けた人の人数	70 人	2023 年 1 月	2021 年度： サポートグループの活動回数（直接支援のみ）年間 49 回を計画し、43 回実施、新型コロナの影響で中止 6 回 ※間接支援も含んだ活動数は 73 回	2
2　支援地域（広島県・埼玉県）において、更生保護施設退所者及び非行少年等がサポートグ	支援につながった更生保護施設退所者及び非行少年等の数	"①初期値より月平均 30 人増加（月平均 100 人）【ウィズ広島】 ②１回３人【清心寮】	2023 年 1 月	①2021 年 9 月～2022 年 3 月の相談人数は延べ 935 人。月平均 133 人。	2

ループの活動につながる状態になる。【ウィズ広島・清心寮】				②１人	
３　支援地域（福岡県・東京都・埼玉県・神奈川県及び千葉県）において、サポートグループが行う依存症回復支援につながる状態になる。【ジャパンマック、両全トウネサーレ、清心寮】	"支援を利用した罪を犯した依存症者の数	"①年間 24 人増加【ジャパンマック】 ②年間 20～30 人（10～20 人増加）【両全】 ③1 回当たり 10 人（７人増加）【清心寮】	2023 年１月	①2021 年 9 月～2022 年３月 44 名（なお、上半期 23 名） ②2021 年 9 月～2022 年 3 月３名（なお、上半期は１名） ③３人	2
４　支援地域（福岡県・愛知県・岐阜県・大阪府・広島県）において、サポートグループにつながり、生活再建支援や悩み相談支援等を受ける状態になる。【TFG・全国再非行防止ネットワーク協議会・のわみサポートセンター】	"①相談を受けた若年女性の数【ＴＦＧ】 ②支援を受けた非行少年等の数【全再協】 ③支援を受けた刑務所出所者等の数【のわみ】"	"①相談カードの配布数が初期値年 150 枚から 60 枚増加 ②3 年間で 37 人 ③毎月新たに 2～3 人"	2023 年１月	①2021 年 9 月 0 枚（休止）、同 10 月～2022 年 2 月各約 120 枚、同３月約 1,750 枚 ※１回の夜回りで 30 枚前後を配布。3 月は約 1,600 枚を関係機関から福岡県内の中学校等に配布して頂いた。 ※9 月～3 月の相談件数 445 件 ②2021 年 9 月～2022 年 3 月、７人（うち５人は出所前の支援）	2

				※累計 16 名（2020 年度 6 名・2021 年度 10 名） ③2021 年度(4 月～3 月まで) 新たに 10 名支援	
5　支援地域（愛知県・神奈川県・埼玉県）において、サポートグループの実施する就労サポート事業につながった状態になる。【愛知県就労支援事業者機構・神奈川県就労支援事業者機構・清心寮】	"①支援を受けた刑務所出所者等の数【愛知県就労支援機構】 ②就労支援フォローアップを受けた刑務所出所者等の数【清心寮】 ③支援を受けた非行少年の数【神奈川県就労支援機構】	"①年間 39 人 ②年間 150 人（50 人増加） ③3 年間で 41 人"	2023 年 1 月	①2021 年 9 月～2022 年 3 月：法定期間経過後の支援 4 名・インターンシップ支援 4 名（2022 年度総数：法定期間経過後の支援 6 名・インターンシップ支援 9 名） ②2021 年度総数 146 名 ③2021 年度総数 11 名（体験活動 9 名、定着支援 2 名） ※2019 年度からの累計は職場体験 14 名、定着支援 3 名	2
6　支援地域（福岡県、埼玉県、愛知県）において、罪を犯した人や非行少年等の更生支援について、理解・協力の働き掛け	"協議会・講演会・勉強会等の実施回数 "	・初期値より 2 回増加【ＴＦＧ】 ・初期値より 3 回増加【清心寮】 ・年間 4 回【全再協】"	2023 年 1 月	①1 回 ②0 回 ③5 回（地方勉強会 4 回、シンポジウム 1 回）	2

が行われる。【ＴＦＧ、清心寮、全国再非行防止ネットワーク協議会】					
７　支援地域において、支援を受けることにより社会復帰への意欲が喚起され、立ち直りに至った事例または再犯に至った事例のナラティブ。	事例（ナラティブ）の数	全ての実行団体で各 10 人程度	2023 年 1 月	現在収集作業中である	3

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
８（0101）　実行団体が、資金分配団体の目標（有機的な地域ネットワーク（つながり）形成）について、理解する。	"実行団体のうち、資金分配団体の目標について、理解できた数（①十分理解できた②理解できた③どちらでもない④あまり理解できなかった⑤全く理解できなかった）	すべての実行団体が、「①十分理解できた」又は「②理解できた」と回答する。	2023 年 1 月	2021 年 12 月、改訂したロジックモデルを元に、弊協会の目標（有機的な地域ネットワークの形成）について説明を行い、意識してもらうよう働き掛けを行った	2
"９（0102）実行団体が、事業を進める上で連携強化の必要性	"実行団体が、事業を進めていく上で、連携関係を	すべての実行団体で、事業を進めるために必要な関係機関･団体に	2023 年 1 月	事業を進めるために必要な関係機関・団体に	2

を理解し、連携構築又は強化したい関係機関・組織について、把握・整理している	築きたい又は連携関係を強化したいと思っている機関・団体について、把握し、整理できている。	ついて把握・整理できている。		ついて把握・整理できている団体は 8	
10（0103）実行団体が、連携が必要な関係機関・団体に対し、連携を呼びかけ、相互に協力できる関係性に向けた働き掛けをしている	""実行団体が、連携が必要な関係機関・団体に対して、連携構築又は強化のために必要な働き掛けを行っている。	"すべての実行団体が、事業を進める上で連携構築･連携強化が必要と考えたすべての関係組織･団体に対し、意識的･継続的に働き掛けを行っている。	2023 年 1 月	意識的・継続的に働き掛けを行っている団体は、 6	3
"11（0104））支援地域において、実行団体への様々なサポートが行われる（経験が蓄積される。）	①実行団体が事業の困り事に対して(資金分配団体から)必要な支援が提供されたと感じているか ②他の実行団体の取組や外部講師からの学びを、自団体の活動に生かすことができた(できそうだ)と感じた実行団体の数	"①すべての実行団体が「必要な支援が提供された」と感じている。 ②すべての実行団体「他団体の取組や学びを活動に生かすことができた（できそうだ)」と感じている。"	2023 年 1 月	①月次の面談で困りごとがないかを毎月確認しており、相談があった場合は速やかに対応するようにしている。 ②12 月に意見交換をした際には、他団体の取組が非常に刺激になるという感想を得ている。	2
12（0201）実行団体が、助成終了後に活動を継続するため何が必要か（課題）について、理解できている。	①実行団体が、活動を継続するために乗り越えるべき課題が何かを把握し、十分に理解できてい	すべての実行団体が活動継続のために必要な課題を把握し、十分に理解できている(課題の明示ができる)	2023 年 1 月	すべての実行団体が、活動継続のためにクリアすべき課題が何かについて把握できてい	2

	る。			る。	
"13（0202）実行団体が、0201で把握した課題を解決するために必要な取組を行っている。	"①実行団体が、活動を継続するために乗り越えるべき課題の解決に向けた取組を行っている。	"①すべての実行団体が、活動継続のために必要な取組を行っている（具体的な取組内容、取組回数）	2023 年 1 月	活動継続のための具体的な取組をしている団体は半分程度	3
14（0301）　実行団体の取組みについて、その手順･進め方（作り方のコツ）のノウハウが整理される。	"①実行団体の取組について、その手順（コツ）が把握・整理されている	①実行団体の取組の手順や進め方（ノウハウ）について、資料化されている。	2023 年 1 月	資料化の方法について検討中である	3
"15（0302）0301 で把握されたノウハウが、多くの関係者に届けられ、共有化される状態になる	①アウトプット 14（0301）で整理された資料が公開されている	①資料が公開され、活用したい人が閲覧・活用できる状態になる	2023 年 1 月	資料をどのように共有するか検討中である	3

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☐変更なし　☑短期アウトカムの内容　☑短期アウトカムの表現　☑短期アウトカムの指標　☑アウトカムの目標値
3.非資金的支援の活動に関する報告

2021 年度、５月に非営利組織評価センター中間評価報告に向けたガバナンス研修を開催。同年９月に評価アドバイザー（新藤健太氏）をファシリテーターとして、実行団体のロジックモデル整理のためのワークショップを開催し、中間評価報告書提出後に、各団体の事業計画書の改訂を支援した。更生保護法人清心寮には、評価アドバイザーとともに実行団体に赴いて、ロジックモデル整理を行った。 同年 11 月、評価アドバイザーと、津富宏氏、大澤望氏の協力を得て、弊協会のロジックモデルを整理し事業計画書を改訂した。 同年 12 月、実行団体相互の意見交換会を実施し、改訂した事業計画書に基づく弊協会の事業目標の説明を行った。 2022 年１月～実行団体と助成終了後の課題についての対話を開始し、２月にファンドレイジング及び企業連携についてのニーズ調査を実施。同年３月から、ジャパンマックとともに JANPIA のファンドレイジング実装支援プログラムに参加している。
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
弊協会では、新型コロナウイルス感染拡大前は、Zoom などのオンライン会議ツールを活用した経験はなかったが、2020 年度から導入し、2021 年度は、実行団体の多くもオンライン会議に慣れてきたことで、実行団体への支援がより円滑に行えるようになった。例えばシステム操作に関する支援など、パソコンの画面を共有しながらの方が双方の理解が進む場面では、電話からその場で Zoom に切り替えるなど、日常的にオンライン会議を活用することができるようになった。また、毎月の定例面談も、オンライン会議の手軽さもあり、必要に応じて実施回数や時間について柔軟に対応できるようになり、必要な団体とは、綿密な情報共有、意見交換を行うように配慮した。地方にある実行団体については、新型コロナウイルス感染状況を鑑みると、東京からの訪問が困難な状態は続いた一方で、首都圏所在の団体に対しては、できる限り対面での面談を行うことで、伴走支援強化を図った。

① 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

実行団体のうち「全国再非行防止ネットワーク協議会」「神奈川県就労支援事業者機構」が JANPIA 広報サイトに掲載

2.広報制作物等

「更生保護」2022 年 2 月号

3.報告書等

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

④規程類の整備に関する報告

1. 規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☑全て公開した　☐一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
2. 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐はい　☑いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：規程の変更がなかった

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

RESOLA